

## 押村高教授のご退任にあたって

国際政治経済学部長 内 山 義 英

押村高先生のご定年に伴うご退職に際し、学部長として、本学でのお勤めに対して、改めて御礼申し上げます。

先生は 1993 年に本学部国際政治学科に専任講師として就任されました。その後助教授、教授と昇進され、本学では 30 年以上の長きにわたって研究・教育に携わってこられました。この間には、本学部の国際政治学科主任、また学部長にも就任され、本学部の教育改革にも多大な貢献をされてきました。現在のグローバル・スタディーズ・プログラム (GSP) は、まさに押村先生が学部長の時代に始められたものです。

学部長任期を終えられた後、さらには国際・広報担当の副学長にも就任され、今度は大学全体の改革にも取り組んでこられました。こうした大学の行政にも大きく関与され、本学部のみならず、大学全体に対しても多大な貢献をされてこられたことは、誰もが認めるところでしょう。

押村先生は大変博識で、ご専門分野を挙げると政治思想史、フランス政治、現代政治理論、国際関係思想史、欧州地域研究、EU 研究、政治文明論、ナショナリズム論と大変多岐にわたります。さらにフランス語も堪能であったことから、本学に就任された当初は、フランス語の授業も担当されていたと記憶しております。まさに学者として研究ばかりでなく、教育にも大活躍の先生でした。

私が 2024 年から学部長を務めるようになり、教授会での議事進行を担当していますと、今さらながら押村先生の偉大さを感じます。教授会の中で議論がもめた際には、常に大所高所から考えた発言をされ、そして一定方向へ導かれ

ていくお姿を何度も目にしました。こうした先生の実在は、我々にとってどれほど心強いものであるかを、学部長になって一層感じた次第です。

その一方で、だいぶ昔の話ではありますが、教員皆でカラオケに行った際には、ある先生と一緒にになってネクタイを頭に巻いて熱唱されておられました。普段は凜とされたお姿なのですが、場によってははじけるぐらいになれるお姿のギャップが、先生のたまらない魅力を感じずにはおられませんでした。

これまで押村先生と同じ学部で仕事できたことに心より感謝申し上げますとともに、学部を離れることにはなりますが、先生のこれからの益々のご活躍を願ってやみません。本当にありがとうございました。